

那覇市在宅医療・介護連携推進事業 在宅医療同行訪問研修報告

氏 名：豊見山 顕二（看護師）
所属施設：那覇市立病院

分野	訪問看護
実施日時	令和7年9月19日（金） 9時00分～13時00分
研修先	訪問看護ステーションかみはら 末吉 看護師
実施報告	<p>今回の研修では、1歳の小児と70代の患者さんの2件訪問させていただくことができ、訪問看護師としての役割や業務の流れ、患者さんとの関わり方、他職種との連携など多くのことを学びました。</p> <p>訪問看護は、患者さんが自宅で生活し続けられるように支援することが目的であり、その為に患者さんやそのご家族と信頼関係を築き、現状の把握や日常生活で困っていることを聞き出すコミュニケーションスキルの大切さを学びました。</p> <p>同行させていただいた看護師の方も患者さんとそのご家族と笑顔で会話をされており、お互い話しやすい環境であると感じました。また、訪問看護は、患者さんを中心とした多職種での支援が欠かせません。今回同行させていただいた患者さんは、訪問看護だけではなく、訪問診療、訪問リハビリ、訪問薬剤師、訪問介護、入浴サービスといったサービスを利用されていました。「いつでも誰かが関わっており、何かあってもすぐに連絡できるから安心」と話されていました。</p> <p>定期的に情報共有の場を設けたり、患者さん宅にノートを設置して情報共有を行っていました。必要時は電話でのやりとりも行っており、スムーズな調整もなされていました。同行訪問研修を通じて、患者さん一人ひとりのニーズに合わせたケアの大切さ、そしてチームとしての連携の重要性を深く学ぶことができました。研修で得た経験を基に、これからも学びを続け、患者さんやそのご家族が安心して療養生活が送れるようにしていきたいと思えます。</p>
研修を終えて	<p>急性期病院から在宅へ療養の場を移された患者さんの生活を見ることができ、退院後の生活をイメージすることができました。改めて患者さんやご家族との関係性を築くためのコミュニケーションスキルや、多職種との連携における情報共有が大切であると感じました。</p> <p>実習を経て、学んだ経験や知識を、退院支援に活かしていきたいと思えます。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。</p>